

サポートツール全国キャラバン2012「教材教具研修会」in 東京

発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた  
指導・支援の具体的方法

**研修会報告書**

2013年2月10日

江東区教育センター大研修室

主催：特定非営利活動法人 全国LD親の会

## 【研修会開催趣旨】

「障害者の権利に関する条約」への批准に向けた国の取組みの中で、平成23年7月、障害者基本法改正案が可決され、平成24年7月には「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」の中で「障害のある子どもと無い子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきである」という提言がなされた。「共生社会」とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会であり、その形成に向けたインクルーシブ教育システム構築が求められている。

2007年4月、学校教育法が改正され、特別支援教育の推進が図られてきた。全国LD親の会では、2006年度から2年間にわたり、文部科学省から「障害のある子どもへの対応におけるNPO等を活用した実践研究事業」の委嘱をうけ、「LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害向けの教材・教具の実証研究」を日本発達障害ネットワーク（JDDネット）の加盟団体等と共同で行い、学校や療育機関での先行事例・有効事例、家庭での工夫等による教材・教具のアイデア、事例を収集して、LD、ADHD、高機能自閉症等の発達障害のある子どもの困難やニーズに合わせた有効なサポートツール（教材・教具など）を体系的に整理し、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）

<http://www.jpald.net/research/index.html>

を作成した。

さらに、2009年度からは、日本財団の助成を受けて、発達障害児のためのサポートツール・データベース（教材・教具DB）を質、量とも充実させ、普及させるための事業に取り組み、今年度からは、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築を目指して、特別支援教育の推進によって蓄積されてきたノウハウの汎用化・ユニバーサルデザイン化・様々な障害の状態に応じた支援機器の充実を図った「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」事業に取り組んでいる。ユニバーサルデザイン化には、一人一人のニーズを把握するパーソナル化の視点が不可欠であり、各地で研修会を開催して「インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の視点」について考えていく。

全国LD親の会と実施している本事業の紹介とともに仲間作りのきっかけを作っていくことを視野に入れて、特別支援教育士資格認定協会S.E.N.Sの会各支部会・各都道府県作業療法士会と連携を図って進めていく。今年度は東京都江東区と長崎県諫早市で開催する。

## 【研修会開催要項】

日 時：2013年2月10日（日）午後1：30～4：30（受付1：15～）

会 場：江東区教育センター大研修室（東京都江東区東陽2丁目3-6）

### プログラム

- 1、講演1 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」  
～使い方で変わる教材の有効性～

講師 山田 充 氏

（特別支援教育士スーパーバイザー・自閉症スペクトラム支援士アドバンス・  
堺市立日置荘小学校通級指導教室教諭・堺市特別支援教育専門家チーム・  
堺市特別支援教育推進リーダー育成研修推進委員）

- 2、講演2 「作業の工夫で子どもたちを元気に！」

～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～

講師 丹葉 寛之 氏

（藍野大学医療保健学部作業療法学科講師・大阪府作業療法士会発達部門代表）

主 催： 特定非営利活動法人全国LD親の会

後 援： 東京都教育委員会・江東区教育委員会・一般社団法人日本LD学会・  
一般社団法人日本作業療法士協会・一般社団法人東京都作業療法士会・  
日本感覚統合学会

事務局： 〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-26-5 パロール代々木415

TEL/FAX： 03-6276-8985 E-MAIL： jimukyoku@jpald.net

URL： <http://www.jpald.net/>



## 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用 ～使い方で変わる教材の有効性～」

報告者：山田 充（特別支援教育士スーパーバイザー）

講演は、他のキャラバンでは、2時間弱の講演時間だが、今回の東京が会場などの都合により、半日講演で持ち時間1時間だったため、以下の内容を踏まえつつ講演したが最後に時間が足りなくなり申し訳なかった。具体的な子どもの姿とその子どものもつトラブルを紹介しながら、その要因が思いもよらない原因で起こっていることを説明することから入っていった。そのことに対応しないと二次障害となる。学校現場などで問題行動を起こす子どもたちの多くは、学習困難への支援がしてもらえず、そこから問題行動に発展する二次障害であることが多い。二次障害というものがあるということ強調しながら話を進めた。

学習困難の要因を探る体験のために、子どもの算数のテスト問題などを提示し、誤りの要因をきちんと考えていき本人の特性と結びつけることで、学習支援の具体的な方法を見つけることが出来ることを紹介した。分析の方法についても、少し紹介しながら進めた。

このように子どもの様子を紹介する事例ベースで、講演をすすめ、その事例の子どもへの対応を紹介する中で、実際に使用している教材（データベースで紹介されている物も含めて）のコンセプトを紹介するとともに具体的な使用方法について説明していった。

次の支援方法を障害特性ごとにまとめて説明した。LD状態への対応は認知への支援、ADHD傾向への支援は集中への支援、広汎性発達障害傾向の子どもたちには、その特性の理解と特性に沿った道筋の支援が必要であることを紹介した。

1時間の講演であったが、参加者はとても熱心に聞いて下さり、たくさんの有り難い感想を頂いた。感想の中で特徴的なことは、もっと聞きたかった、時間が短かったなどの有り難い感想をいただいた。通常のキャラバンでは、教材の展示も行っているが、感想の中に実際の教材を見たいという声が多数あり、半日だったのが、残念であった。多くの感想から、他にも子どもの様子を思い浮かべながら聞いていただく方が多数おられたことと、子どもの様子や行動を分析することの重要性を認識した、教材もたくさん知ることが出来た、また今後実践してみたいというような積極的な感想を多数いただいた。東京では、再度時間をじっくり取った講演会をする必要を感じた研修会であった。

感想から

### 保護者

- ・もっとたくさんの事例をゆっくり長時間聞きたかった。すごく実践的な話で分かりやすかった。
- ・自分の息子と同じと思う例がいくつもあり、家で実践してみようと思った。もっと沢山聞きたかった。
- ・地域外の相談にも応えて下さる先生がいてうれしい。
- ・具体的な支援の話が聞けて良かった。もっと聞きたかった。
- ・3人の息子に発達障害がある。どうしたらいいか分からなかった事が見えた気がした。
- ・具体的な事例を伺えて良かった。資料の全部が聞きたかった。
- ・発達障害の問題行動の原因を紐解くと、全く気がつかなかった根本的な問題があるのだと分かった。

- ・帰宅したら怒るのをやめないと、と思った。先生にも聞かせたい。
- ・それぞれの課題に応じた対応、学び方があるという事で子どもへの接し方の参考になった。
- ・通常級での発達障害のある子の発見とそれに対する適切な支援がいかに大切かが分かった。
- ・「想起困難」といった言葉を教えて頂きスーッとしました。

#### 教員

- ・もっと沢山指導例を聞きたかった。
- ・先生の講義にもっと参加したい。
- ・分析の仕方、アドバイスの仕方が分かりやすくすぐに実践したい。
- ・診断がなくても早い段階で気づいてあげることが二次障害を防ぎ、その子を輝かせるのだと感じた。
- ・クラスに支援が必要な子が大勢いる。もっと手だてを講じる必要がある。勉強しなくては！
- ・支援の必要性は理解できたが担任は全体指導の中での個別指導は難しい。
- ・実際にカードや教材が見たかった。

#### 作業療法士

- ・今後の療育で参考にしたい。もっと話を聞きたかった。
- ・学習の困難さが学校生活に大きな影響及ぼしていることが分かった。

#### その他

- ・山田先生の話は3時間くらい聞きたかった。
- ・問題行動が維持する要因の分析観点が興味深かった。時間が足りない。(大学生)
- ・外国籍の児童への支援にも生かせる内容だった。(学童保育指導員)



## 「作業の工夫で子どもたちを元気に！」

### ～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～

丹葉 寛之 藍野大学医療保健学部作業療法学科講師・  
大阪府作業療法士会発達部門代表

「教材教具研修会」 in 東京では、「作業の工夫で子どもたちを元気に！」～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～ というテーマのもと、研修を行いました。「子どもが行っている活動の難しさの原因を考える視点を深めること」、「具体的なサポートについて知ること」、「自分の関わり方を振り返ること」を目的に講義をおこないました。

具体的な内容として、①日常的に子どもが行っている活動分析の視点をトップダウンアプローチで考えること、②活動を一連の行為として捉え、どの部分で困難さを示しているのかを見ていくこと、③活動遂行を、人と作業と環境の3つの視点で捉えていくことをお話ししました。

これらのことを基本にしながら、④学校でよく見られる具体的な場面を通して子どもが行っている活動の困難感について説明を行いました。その中で、活動を心身機能的側面、環境的側面、作業課題的側面から分析し、人と作業と環境がそれぞれどのように関連し、どの側面の問題がどんな影響を与えるのかを考えました。また、子どもの示している活動の具体的なサポートについてもお伝えをしました。

発達障害のある子どもは、私たちの感じ方や、情報の処理の仕方が違うこと、大人側の思いと子ども側の思いが同じではなく、大人の出来るはずと言う思いは通用しないこと、一生懸命努力しているから、疲れやすくて持続して取り組むことが難しいこと、失敗経験が多いことから苦手なことを避けるため、余計に色々なことに対しての経験が少なくなること、私たちと感覚の感じ方の違いがあるため、感覚を上手く調整（選択）して取り込むことが難しいので、心身にストレスがかかりやすいこと、作業をしているとき、姿勢や手の使い方の問題、工程の理解など様々なことが影響し、作業に安心して取り組みことや、満足感、達成感を持ちにくいという特徴について、説明をしました。

色々な困難感を示している子どもたちに対して、人やモノ、環境と上手く関係がとれる方略を見つけていくこと、無理をしすぎない、自分のやり方で、どこを助けて、何を練習すべきかを、明確にしながら支援を行う必要があること、大人が見守り、最小限の協力を行い、自分で出来た喜びを達成できること、作業の可能性を奪わないことが大切になることをお伝えしました。

## 発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた

### 指導・支援の具体的方法

#### <アンケート集計>

参加者 87名（保護者37名、教員16名、作業療法士4名 その他30名）

アンケート回収数 57名分（保護者32名、教員16名、作業療法士4名 その他9名）

回収率 65.5%

本日の企画はいかがでしたか？ ご感想をお聞かせください

#### 講演1 「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」～使い方で変わる教材の有効性～

##### 保護者

- ・もっとたくさんの事例をゆっくり長時間聞きたかった。すごく実践的な話で分かりやすかった。
- ・自分の息子と同じと思う例がいくつもあり、家で実践してみようと思った。もっと沢山聞きたかった。
- ・地域外の相談にも応えて下さる先生がいてうれしい。
- ・具体的な支援の話が聞けて良かった。もっと聞きたかった。
- ・3人の息子に発達障害がある。どうしたらいいか分からなかった事が見えた気がした。
- ・具体的な事例を伺えて良かった。資料の全部が聞きたかった。
- ・発達障害の問題行動の原因を紐解くと、全く気がつかなかった根本的な問題があるのだと分かった。
- ・帰宅したら怒るのをやめないと、と思った。先生にも聞かせたい。
- ・それぞれの課題に応じた対応、学び方があるという事で子どもへの接し方の参考になった。
- ・もっと話が聞きたい。時間がなかったのが残念。
- ・教材教具の実物も見たい。
- ・英語が理解できないようで・・・英語の学び方を知りたいです。
- ・通常級での発達障害のある子の発見とそれに対する適切な支援がいかに大切かが分かった。
- ・「想起困難」といった言葉を教えて頂きスーッとしました。
- ・ワーキングメモリの苦手さは注意の問題だけではない事等も加えて頂けると良かった。

##### 教員

- ・もっと沢山の指導例を聞きたかった。
- ・先生の講義にもっと参加したい。
- ・分析の仕方、アドバイスの仕方が分かりやすくすぐに実践したい。
- ・診断がなくても早い段階で気づいてあげることが二次障害を防ぎ、その子を輝かせるのだと感じた。
- ・漢字カードを使用しているが、もっと上手に使わないと、と反省した。
- ・山田先生に実際お会いし大変感動した。お人柄が素敵だった。
- ・クラスに支援が必要な子が多勢いる。もっと手だてを講じる必要がある。勉強しなくては！
- ・支援の必要性は理解できたが担任は全体指導の中での個別指導は難しい。
- ・実際にカードや教材が見たかった。

##### 作業療法士

- ・分析をいかに丁寧にやっていくのか・・・そこにつくるのだと思った。
- ・今後の療育で参考にしたい。もっと話を聞きたかった。
- ・考え方の参考になった。



- ・学習の困難さが学校生活に大きな影響及ぼしていることが分かった。

#### その他

- ・山田先生の話は3時間くらい聞きたかった。
- ・問題行動が維持する要因の分析観点が興味深かった。時間が足りない。(大学生)
- ・支援の方法についてわかりやすかった。(言語聴覚士)
- ・外国籍の児童への支援にも生かせる内容だった。(学童保育指導員)

### 講演2 「作業の工夫で子どもたちを元気に！」～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～

#### 保護者

- ・姿勢の保持や筆圧の問題は後回しになってしまっている事に気がついた。
- ・実際に家庭で気をつけるべきことを細かく説明され参考になった。
- ・どうして上手く文房具を使えていないかが良く分かった。
- ・「出来ない事」が身体的な問題だったことが分かって良かった。
- ・理論的な説明が良かった。
- ・今まで子どもに無理をさせていた事に反省した。
- ・もっと浸透していくべきノウハウだと思う。
- ・工夫の仕方をもっと知りたかった。時間が足りなかった。
- ・簡単な工夫で大きな効果があることが分かった。
- ・ホームページを見て息子にあった物を活用したい。
- ・今日の内容だと資料を見るだけでいい。実際に見本を見たかった。
- ・椅子の座り方一つでもサポート出来ることがあるのだと思った。

#### 教員

- ・学校でも作業療法士との連携が必要と感じた。
- ・パワーポイントや資料が見えにくく残念だった。
- ・多面的に課題を捉え重点的に取り組むべきチョイスが大切だと思った。
- ・苦手なことにも原因があり、そこを分析し具体的に指導することが必要だと思った。
- ・さっそくやってみようと思うものがあつた。
- ・学校場面ではもっと配慮が必要な場面があるので、もう少し聞きたかった。
- ・中学校では身長差があるのも関わらず170cmの特大型ばかりの現状に心が痛む。
- ・動きには様々な要素があることが分かった。

#### 作業療法士

- ・簡単なグッズで少しでも子どもたちが楽になるという事があるので試してほしい。
- ・動作分析、環境の工夫が重要ということがOTとして改めて再認識できた。
- ・具体的な事例が良かった。仕事に生かしたい。

#### その他

- ・これを楽しみに参加したが簡単で残念だった。
- ・姿勢の重要さが理解できた。(指導員)
- ・理解しやすかった。(心理士)
- ・塾でも様々なお子さんがいます。支援が必要な子が見えてきた。(塾講師)

### ワークショップ「子どもの解答用紙から何を読み取るか？」

#### 保護者

- ・原因をつきとめて、そこを指導するという点で自分の子を良くみてみます。
- ・具体的な視点を教えて頂いて今後の関りにヒントがもらえた。
- ・担任に相談しても「私には何もできません」と言われ、現在息子は暴れています。山田先生のような担任に出会いたい。
- ・もっと具体例を聞きたかった。

#### 教員



- ・ビデオを見ながらの解説が良かった。とにかく具体的な支援・指導が知りたかった。
- ・困難さは重複しているのだと分かった。
- ・ビデオや回答用紙から、子どもの分析と支援について視点を磨く勉強になった。
- ・指導計画をたてる上で大切な事が沢山つまっていた。力をつけたい。
- ・学校・専門機関・保護者が一緒に取り組むことは難しいが必要。
- ・着目点⇒整理⇒指導方法の流れが良く分かったが2時間くらいかけて考える時間がほしかった。
- ・きちんと鉛筆を持っている生徒はクラスに2割という中学校の現状。
- ・教師・OTの両者からの視点が良かった。

#### 作業療法士

- ・ワークショップ形式で学ぶのは精度が上がる。
- ・映像と用紙での分析が分かりやすかった。

#### その他

- ・支援する際にその子にあった課題を見極めていきたい。(指導員)
- ・分析する事がとても重要だとわかった。(言語聴覚士)
- ・理解されない子どもは傷ついているのだと思った。
- ・見逃している点(細かい部分)が多々あることが分かった。(塾講師)

「特別支援教育」「発達障害者支援法」に望まれることやその他ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

#### 保護者

- ・もっと広く知ってもらいたい。
- ・学びの場から支援の方法を考えてほしい。
- ・地域や学校の格差がある。今日講演頂いた様な事が日本のスタンダードに早くなってほしい。
- ・現場の先生の理解。
- ・通常級にも具体的支援がほしい。
- ・手帳がとれない中学校の子どもへの支援。
- ・この言葉ばかり先行してしまい理解がなく偏見な目で見られる事が多い。
- ・教員の認知が低く特別支援学校に回されてしまう子を救ってほしい。
- ・中学校の通級指導教室の更なる普及を進めてほしい。
- ・現場は多様なお子さん、特に親に問題のあるお子さんで手いっぱい。学校外に支援を求めている現状。

#### 教員

- ・東京は特別支援学級希望ではない教員が回されている現状で研修会の機会を求めている。何年も教員をしているが、今回初めてこのような研修会の案内が回覧された。
- ・進学校といわれる高校でも特別支援教育の考え方が理解されるといい。
- ・担任一人で33人の子の分析は難しい。サポートしてくれる人材がほしい。
- ・コーディネーターとして障がい名のつかない生徒に対し知識が足りないと実感している。
- ・教員・スタッフだけでなく教育委員会も専門性が必要。

#### その他

- ・インクルージョンの流れの中で特別支援学校・学級の位置づけが気になる。
- ・幼稚園などでも支援を導入してほしい。

